

Okayama EU Letter

岡山EU協会会報 2015. 9

Vol. 7



★ 2015年度理事会・総会開催 新会長に萩原邦章氏 ★

2015年度理事会が6月5日(金)、岡山市内のホテルで開かれ、任期満了に伴う役員改選の結果、会長の泉史博氏(岡山経済同友会顧問、中国銀行取締役会長)の後任に萩原邦章氏(岡山経済同友会代表幹事、萩原工業代表取締役社長)を選んだ。泉氏は筆頭理事に就任した。

続いて開かれた総会には会員約90人が出席(委任状を含む)、14年度事業報告・収支計算書を承認、15年度事業計画・収支予算を決めた。総会後の記念講演は一橋大学教授の有吉章氏がギリシャ危機が高まる中、「ユーロの行方」の演題で講演した。この後、懇親会を開きフルーツ、ピアノ演奏をバックに和やかなひとときを過ごした。

〔第1号議案〕 **2014年度 事業報告**

1、設立5周年記念講演会開催とEU講座の充実

2009年12月に全国13番目の協会として発足し5周年を迎えたことを記念し講演会を開催、作家でチャンネル日本法人代表者のリチャード・コラス氏から「フランス人から見た日本文化のあれこれ」の話を聴きました。コラス氏は「日本には世界が学ぶべきものがある。それを失わないように」と強調しました。なお、協会発足翌年の10年4月、もっと欧州の経済・文化事情を知ろうと身近な講師を招いてEU講座をスタートさせましたが、本年度は岡山県立美術館の学芸員を招き、フィンランドの女性画家・作家のトーベ・ヤンソンとその代表作の童話ムーミンの魅力について学びました。

2、EUフィルムデーの開催

前年に続き通算3回目の開催となりました。香川EU協会と共催、チラシにお互いの上映作品を紹介し合いました。岡山ではポルトガル、エストニアといった日ごろあまり鑑賞の機会がない2カ国の映画2本を上映、多くの映画ファンの好評を得ました。

3、「EU Letter」の継続発行

年1回発行しています。本年度も6月理事会・総会での決定事項、総会の記念講演の要旨、ホームページに掲載したイベントレポート

などをとりまとめて発行しました。

4、岡山EU協会のホームページの充実

2010年5月に立ち上げ、会長あいさつ、会則などを常時掲載しているほか理事会・総会、EU講座の開催日をイベントカレンダーとして、また、その結果をイベントレポートとして報告しています。創立5周年を記念してページもリニューアル、スマートフォンにも対応できるよう、また「写真で見るEU」では会員からの写真を公開できるようにしました。

5、駐日欧州連合代表部が行う「EUがあなたの学校にやってくる」などの受け入れ

EU加盟国の駐日大使や外交官などが2007年から毎年5月に、全国の高校に出向きEUおよび出身国の状況を説明する出張授業を行っています。本年は県立岡山南、井原高校など4校で行われました。

6、EUとの友好促進事業の実施・共催

本年度のEU協会全国総会が12月、東京都港区の駐日欧州連合代表部で開かれ、各地のEU協会から活動状況の報告、意見交換が行われました。岡山からは金森満廣事務局長が出席しました。

〔第2号議案〕 **2014年度 決算報告**

(2014. 4. 1 ~ 2015. 3. 31)

収支決算

| | |
|------|-------------------------|
| 収入総額 | ¥3,169,193 |
| 支出総額 | ¥2,618,358 |
| 差引残高 | ¥ 550,835 (2015年度に繰り越し) |

収入の部

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差引額 | 摘要 |
|--------|------------|------------|------------|--|
| 年会費収入 | ¥1,520,000 | ¥1,505,000 | ¥ - 15,000 | 法人会費 @20,000×62、個人会費 @5,000×53 |
| 参加会費 | ¥504,000 | ¥406,000 | ¥ - 98,000 | 総会 @7,000×29 = 203,000円 第14回EU講座 @5,000×19 = 133,000円 5周年記念パーティー @7,000×10 = 70,000円 |
| 事業収入 | ¥100,000 | ¥127,500 | ¥27,500 | EUフィルムデーズチケット売上 |
| その他雑収入 | ¥200 | ¥228 | ¥28 | 普通預金利息収入 |
| 前年度繰越金 | ¥1,130,465 | ¥1,130,465 | ¥0 | |
| 合計 | ¥3,254,665 | ¥3,169,193 | ¥ - 85,472 | |

支出の部

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差引額 | 摘要 |
|-------|------------|------------|-------------|--|
| 総会費 | ¥600,000 | ¥668,312 | ¥68,312 | ・6/16総会会場・懇親会 486,314円 ・講師費用 181,698円 ・その他 300円 |
| 事業費 | ¥1,000,000 | ¥1,465,077 | ¥465,077 | ・EU講座費用 3/13 221,468円 ・EUフィルムデーズ関係 238,870円 ・5周年記念講演会 1/14 1,004,739円 |
| 広報費 | ¥400,000 | ¥378,001 | ¥ - 21,999 | ・ホームページ維持費用 5,889円 ・ホームページリニューアル制作料 231,444円 ・会報 (EU letter) 6号発行 140,668円 |
| 事務諸費 | ¥100,000 | ¥101,536 | ¥1,536 | ・通信費 57,293円 ・出張旅費 41,514円 ・消耗品費 514円 ・その他雑費 2,215円 |
| その他雑費 | ¥1,000,000 | ¥5,432 | ¥ - 994,568 | くらしきモンカーダ国際芸術祭協賛金 |
| 合計 | ¥3,100,000 | ¥2,618,358 | ¥ - 481,642 | |

会計監査報告

2014年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証憑書類の保管は完全であることを認める。

2015年5月20日

監事 岡崎 研 
 監事 西本 和馬 

〔第3号議案〕

役員選任の件

| | | |
|------|------------------------|---------------------------|
| 名誉会長 | 岡山経済同友会顧問 | 越宗 孝昌 (再任) |
| 会長 | 岡山経済同友会代表幹事 | 萩原 邦章 (新任) |
| 副会長 | 駐日欧州連合代表部広報部長 | セーラー・ウテン (再任) |
| 副会長 | 岡山大学学長 | 森田 潔 (再任) |
| 副会長 | 岡山県国際経済交流協会会長 | 宮長 雅人 (再任) |
| 副会長 | 岡山県経営者協会会長・岡山県国際交流協会会長 | 末長 範彦 (再任) |
| 顧問 | 岡山県知事 | 伊原本隆太 (再任) |
| 顧問 | 駐日欧州連合代表部大使 | ヴィオレル・イステイチョアニア・ブドゥラ (交代) |
| 理事 | 岡山経済同友会顧問 | 泉 史博 (再任) |
| 理事 | 岡山経済同友会顧問 | 中島 基善 (再任) |
| 理事 | 岡山県経済団体連絡協議会座長 | 中島 博 (再任) |
| 理事 | 岡山経済同友会代表幹事 | 松田 久 (再任) |
| 理事 | 岡山経済同友会常任幹事 | 古市 大藏 (再任) |
| 理事 | 岡山県中小企業団体中央会会長 | 武田 修一 (再任) |
| 理事 | 大学コンソーシアム岡山会長 | 高木 孝子 (再任) |
| 理事 | 岡山県文化連盟会長 | 若林 昭吾 (再任) |
| 理事 | 福武教育文化振興財団理事長 | 福武總一郎 (再任) |
| 理事 | 岡山市長 | 大森 雅夫 (再任) |
| 理事 | 倉敷市長 | 伊東 香織 (再任) |
| 理事 | 山陽新聞社会長 | 越宗 孝昌 (再任) |
| 理事 | 山陽放送社長 | 原 憲一 (再任) |
| 理事 | 岡山放送社長 | 宮内 正喜 (再任) |
| 理事 | テレビせとうち社長 | 川端 英男 (交代) |
| 監事 | 岡山県商工会議所連合会会長 | 岡崎 彬 (再任) |
| 監事 | 岡山県商工会連合会会長 | 吉澤 威人 (交代) |

〔第4号議案〕

2015年度 事業計画

- 1、欧州の経済・文化事情についての勉強会「EU講座」を充実する
- 2、「EU Letter」の継続発行
- 3、岡山EU協会のホームページの充実
- 4、会員増強と会員への情報提供の効率化を図る
- 5、EUとの友好促進事業の実施・共催

〔第5号議案〕

2015年度 収支予算書

(2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部

| 科目 | 2014実績 | 2015予算 | 差引額 | 摘要 |
|--------|------------|------------|-----------|---------------------------------------|
| 年会費収入 | ¥1,505,000 | ¥1,590,000 | ¥85,000 | @20,000×65(4法人増強) @5,000×58(5人増強) |
| 参加会費 | ¥406,000 | ¥875,000 | ¥469,000 | 総会参加会費 @7,000×45 EU講座参加会費 (4回開催予定) |
| 事業収入 | ¥127,500 | ¥0 | ¥-127,500 | EUフィルムデーズ開催なし? |
| その他雑収入 | ¥228 | ¥250 | ¥22 | 預金利息 |
| 前年度繰越金 | ¥1,130,465 | ¥550,835 | ¥-579,630 | |
| 合計 | ¥3,169,193 | ¥3,016,085 | ¥-153,108 | |

支出の部

| 科目 | 2014実績 | 2015予算 | 差引額 | 摘要 |
|-------|------------|------------|-----------|---------------------|
| 総会費 | ¥668,312 | ¥750,000 | ¥81,688 | 総会費用 (会場、懇親会、講師謝礼等) |
| 事業費 | ¥1,465,077 | ¥1,000,000 | ¥-465,077 | EU講座費用 約250,000円×4回 |
| 広報費 | ¥378,001 | ¥150,000 | ¥-228,001 | 会報発行、HP維持更新費用 |
| 事務諸費 | ¥101,536 | ¥100,000 | ¥-1,536 | 通信費、出張旅費、消耗品費 |
| 特別費 | ¥5,432 | ¥10,000 | ¥4,568 | 予備費 |
| 次年度繰越 | ¥550,836 | ¥1,006,085 | ¥455,249 | |
| 合計 | ¥3,169,194 | ¥3,016,085 | ¥-153,109 | |

講演要約 (6月5日 2015年度 岡山 EU 協会総会)

「ユーロの行方」

講師 有吉 章 一橋大学国際・公共政策大学院教授、アジア公共政策プログラムディレクター

有吉 章氏の紹介

1953年(昭和28年)生まれ。東京大学工学部卒、オックスフォード大学博士(経済学)。1976年大蔵省入省。銀行局、証券局、国際金融局、金融庁等で金融行政、国際金融政策に携わり、金融庁企画課長、財務省副財務官、同省大臣官房審議官などを勤める。また、国際機関勤務も都合13年にわたり、欧州復興開発銀行(EBRD)調査局シニア・エコノミスト、国際通貨基金(IMF)為替通貨局局長補、同基金アジア太平洋地域事務所長などを歴任。2010年4月より現職。2011年より同大学院アジア公共政策プログラムディレクターも兼務。他に三菱UFJフィナンシャルグループ。リスク委員会委員、ASEAN+3マクロ経済リサーチオフィス・諮問委員会委員等を勤める。



はじめに

30年以上前になりますが、大蔵省(現財務省)の同期が、大蔵省玉野税務署長をしていた時に吉備路など岡山を訪れたことを思い出します。

3月にこの講演のお話をいただいた時には、ギリシャの問題は、6月までには決着がつくのではないかと見ていました。しかし、EUとギリシャ間で支援の協議は続いているものの、合意に至っていません。

今月末が期限のIMFからの借入金返済可能かどうかも鍵になります。ギリシャは、国庫に資金はなく、地方財源からかき集め、そればかりではなく、IMFの当座貸越からも借りてなんとか当面の返済をしのいでいますが、月末までにEUとの交渉がまとまらなるとIMFに返済できなくなります。

本日の論点としては、「ギリシャとユーロ各国、どちらの主張が正しいのか、なぜこのような状況になったのか」「どのような帰結となるのか(合意の不成立はギリシャとユーロにどのような影響をもたらすのか)」「ユーロの将来は(ユーロの構造的な欠陥は解消できるのか)」「EUそのものの将来への影響は」を挙げたいと思います。

ユーロの目的—英米の視点

日本では、英・米メディアからの情報が中心で、エコノミストの視点でユーロの問題を見てしまいがちです。このため、英・米国のエコノミストによるユーロに対する批判的な見方が日本でも常識になっています。

例えば1990~2000年代初めに出版された英語圏の論文の見解を要約して、「ユーロなど出来っこない。得

策とは言えないし、例えスタートしても、続かないでしょう(“The euro: It can't happen. It's a bad idea. It won't last.”)などと言われてきました。加えて、英国は、97年当初から、「経済的にプラスになるかどうかの5つの経済的基準で判断する」と表明、結局ユーロには不参加のままです。欧州が上手くいった2000年代前半には、懐疑的な見方は一時後退しましたが、最近また批判的な意見が台頭してきています。

ユーロの目的—欧州の視点

これに対して、欧州の視点は、異なります。ユーロの目的は、欧州のever closer unionの実現という政治的なプロジェクトに向けた必然的なものとされています。しかし、政治的意思だけでは、経済の論理は乗り越えられません。

ギリシャ問題の行方

岡山EU協会が発足した翌年、2010年5月ごろは丁度、ギリシャ問題が勃発したころでした。その後EU、ECB、IMFからの金融支援の条件としてギリシャは強烈な経済調整を余儀なくされるものの、5年を経過した今も、ギリシャ経済は悪化の一途を辿っています。

過度な緊縮策を甘受する中いっこうに好転の兆しが見えないため、ギリシャ国民の不満は高まり、ラジカルな左派政党が政権を握るに至りました。

一方で、融資をしたEUの国々からは、「民営化など約束の履行が不十分だ」など経済が好転しないのはギリシャ自身の責任だとする意見が強まっています。

支援の条件を緩和して欲しいとのギリシャの要望に対しては、多くの国が否定的な態度を取っています。例えば、独は借りたものは返すというモラルを重視し、スロバキアは自らより豊かな国を援助することへの拒否感を露わにし、アイルランドなど厳しい調整を完遂した国からはギリシャに甘く対応することへの反発がこうした態度の背景にあります。

この他の国でも、ギリシャの腐敗体質にフラストレーションを感じている人は多い状況です。

ギリシャの緊急策は空前の厳しさ

とはいえ、ギリシャが何も努力していないというのは事実と反します。ギリシャは、5年間でGDP比12%にも及ぶ財政のプライマリーバランスの改善を実現させました。1年当たりGDPの2.5%にも及ぶ歳出カットないし増税をしてきたこととなります。これほどまでの緊縮策を実施した国は、歴史上ほとんどありません。日本の財政再建は毎年0.5%のカットを目標にしているわけですから、いかに厳しいものか伺えるでしょう。

エコノミストからは、ギリシャは同情されています。景気が悪いから財政が悪化している中、過度な緊縮財政を行えば、景気はますます悪くなるばかりだからです。

緊縮財政で実質GDPは25%もダウン、輸入も大幅に圧縮するなど経常収支も改善させていますから、国内の支出を3分の1もカットしたこととなります。需要の減少は雇用を直撃し、失業率は25%以上、若年失業率は50%、実に若者の2人に1人は失業しています。

救済プログラムの失敗とユーロの制度設計の失敗

危機勃発時にすでにGDPの120%にも上っていた負債を返すことはそもそも不可能です。債権カットが不可避でしたが、2010年の1回目のギリシャ支援の際には債務削減は出来ませんでした。

理由は当時、債権を持つ独仏の銀行に影響が出るのが懸念されたからです。リーマンショック後、足腰が弱くなっていたこれらの銀行に債権カットを強いれば、金融不安に陥る恐れがあったからです。

また、ギリシャが債権カットをすれば、スペイン、イタリアなども同様の道を辿るのではないかの疑念が生まれ、危機が欧州全体に波及することが心配されました。当時のヨーロッパの総意として、なんとか債権カットを避けつつギリシャの債務問題の軟着陸を図ることが重視され、実態としては問題の先送りが選択されました。



不都合な真実

民間保有債権の減額を避けるための相次ぐ公的支援の結果、ギリシャ国債の8割はIMF、ECB、EU政府の公的部門からの借金になってしまいました。残り2割もほとんどギリシャ国内の銀行と年金の保有です。ギリシャ財政の持続性を回復させるためには債務削減を行う必要がありますが、それはとりもなおさずEU憲法が禁止する加盟国間の財政支援につながります。

ドイツなどは、経済回復のためには競争力の改善が必要で、そのためギリシャの労働コストの削減が必要であると指摘します。しかし、2000年レベルと比較すると、労働コストは既に大幅に低下しています。

債務削減は避けて通れませんが、ドイツなどの欧州の強硬派はそれを認めようとせず、一層の緊縮と構造改革を要求し続けています。

ギリシャ問題の帰結

ギリシャ問題の帰結として、①EUとギリシャ双方の妥協、②ギリシャの全面降伏、③政府資金が尽きデフォルト（default、債務不履行）、④ユーロ離脱の4つが考えられます。

EUとギリシャ双方が妥協し、歩み寄ることは、最良だと思います。

ギリシャの預金残高は、ピーク時の半分になっています。海外の銀行に、数兆円の資金流出が起っています。欧州中央銀行から国債担保でお金を借りてなんとかギリシャの銀行部門は回っていますが、もしギリシャ国債がデフォルトすればこの資金供給が止まり、ギリシャ内でお金（ユーロ）が枯渇し、銀行からの引き出しも送金もできなくなる事態が発生します。すると、経済活動がストップします。

ユーロが手に入らないのなら代わりに自国通貨を発行することが考えられます。しかし、ギリシャがユーロから離脱して新通貨を発行しても、新通貨の価値は大幅に下落し、急激なインフレも起こり経済の大混乱は避けられません。さりとてギリシャがEUの要求を

全面的に受け入れても経済の停滞と債務状況の一層の悪化が長期にわたって続き、今回のような危機の再発は避けられそうにもありません。いずれにしても、ギリシャにとって極めて厳しい事態であることは間違いありません。

ギリシャ問題の影響

ギリシャのデフォルト、ないしユーロ離脱は、ユーロにどのような影響をもたらすのかと言うと、短期的には、ギリシャ以外のユーロ圏にとって大きな問題とはならない、と一般的に認識されています。2010年や2012年と異なり、波及の心配は限定的だと見られています。

これは、各国がギリシャに貸した資金が各GDPの3%以内程度とさほど大きくなく、財政や金融上のセーフティー・ネットが構築済みで他国への波及が避けられると見られていることなどが理由です。実際、スペインやイタリアなどの国債金利は今回、ギリシャとは連動していません。

しかし、リーマンショックを引き合いに、楽観論を戒める声もあります。

米国経済において、サブプライムローンの占める割合は約3%でしたが国際金融危機の引き金となりました。東日本大震災で被災した地域が日本のGDPに占める経済も約3%程度でしたがサプライチェーンの寸断により日本経済は大きな影響を受けました。小さな割合だと高をくくっていても、想定外の波及がありうるのです。

「波及は限定的だ」と信じたくなる人の心理も見逃せません。リーマンショック後に出版された回顧録などを読むと、当時、リーマン社の支援を巡る交渉に際してのリーマン社の社長の傲慢さから、財務長官らには「潰してもいい…」とのムードが生まれ、潰してもさほど大きな問題にはならないとの希望的観測を信じるようになったと言われています。ギリシャの独善的な交渉スタイルが各国の神経を逆なでし「厄介なギリシャがいなくなってもいい」し、「ギリシャが離脱しても問題はおきない」と信じたくなる空気がリスクを過小評価する結果につながらないことを祈るばかりです。

課題を乗り越えてきたEUの歴史

ユーロの導入に際しての原則は、ユーロを採用するかどうかは各国が選択できるものではなく、準備が整えばEUは皆ユーロを採用し、永続的に使用しなければならないというものでした。ところが、デンマークとイギリスが異議を唱え、結局EUにとどまりつつも

自国通貨を残す権利を勝ち取りました。ギリシャがユーロから離脱し、ユーロは永続的でなく、一時的なものとなりうるということになると、どうなるのでしょうか。

ポルトガルなどが危なくなった場合、ユーロからの離脱があり得るとの連想が働き、危機が深刻化するおそれがあります。また、対ギリシャ支援で各国に大きな損失が出ると、今後ユーロ圏の国をユーロ内にとどめるためのセーフティ・ネットが使えるかどうかとも疑問になります。

とはいえ、EU統合の歴史は、前進には時間を要するものの、課題を乗り越えて着実に統合を深化させてきた歴史でもあります。しかし、ユーロを維持するために必要な改革のハードルは相当高いです。

ユーロ、EUの課題

ユーロの安定性を高めるには財政統合、銀行同盟の一層の強化が必要ですが、他国を支援するための財政支援には各国の抵抗が大きいため、各国がそれぞれ自国の財政と銀行の健全性を強化することで安定性を確保しようとしています。しかし、このような仕組みには限界があります。

今回のギリシャを巡る混乱はヨーロッパとしてのアイデンティティーが弱くなっていることを懸念させるものです。それは域内における所得再分配への合意形成の難しさにも現れています。ギリシャがユーロから離脱すると、欧州統合が可逆的なものとの前例を作ることになり、長期的には欧州統合の理念を弱めることとなります。果たして欧州はこうした課題に対応できるのでしょうか。

EU、ユーロへの国民的支持

世論調査（2015年6月公表のPew Research: 英独仏西伊波での調査）によると、EUやEU経済に対して最近、欧州の国民はポジティブな気持ちを回復させていることが分かりました。共通通貨に対する支持も欧州中核国で7割以上となっています。一時は経済統合に対して肯定的な回答が三分の一にも満たなかったことを思えば、良い兆候ですし、今後の課題解決を世論が支えてくれる可能性が高まっているとも言えます。

ところが、ドイツでは、EUに対する好意的な見方は他国に比べ低くなっています。ドイツ経済が欧州内で一人勝ちといえるほど好調なのはユーロ安の恩恵を受けていることが大きいのですが、こうした点に関する自覚は乏しいようです。また、ユーロ圏に残るための厳しい経済調整と経済の低迷が続くイタリアなどではユーロへの支持が落ちており、心配されるところで

す。

世界経済の政治的トリレンマとユーロ

ハーバード大学のダニー・ロドリック教授によると、「世界経済は政治的トリレンマの状態に陥っている」とされています。これは①国民国家②民主主義的政治過程③ハイパーグローバル化の3つを同時には成り立たせられないというものです。

①は、自国民の選好に合わせた経済運営ができるか。②は、民主主義的政治過程を経られるか。③は、世界経済の統合を指し、欧州では、欧州単一市場を実現できるかです。

かつては、グローバル化が進展しておらず、各国は民主的に選ばれた政府が自国の価値観に沿った経済政策を決めることが出来ました。ところが単一市場となると政策を調和させなければならないので、例えば、ギリシャ国民が民主主義過程で意向を表明しても、EUの決定が優先し、自国として望ましいと思う政策をとることが難しくなります。逆に、EUとして単一市場を目指す中で民主主義的課程を貫徹させるとすれば、欧州議会と欧州委員会が各国の議会と政府にとって代わり経済運営における優先順位を決めることが必要となり、国民国家としての独自の決定は出来なくなります。つまりユーロ圏の中で国家は消滅せざるを得ないことになります。

英国がユーロに参加しない理由は、英国としてのアイデンティティーを持ち続けたいということでしょう。EUレベルでの統一政策が自分たちの価値観に合わないとの思いが英国のEU脱退議論を後押ししています。反EU政党の躍進は、ヨーロッパ人としてのアイデンティティーを欧州各国の国民が十分持ちきれないというのが、原因ではないかとも思われます。

終わりに

今後の基本シナリオとしては、ギリシャに何があっても、EUには大きな影響が無いと想定されていると思われれます。とはいえ、想定外の状況はあり得ます。その影響は、欧州圏のみに留まるものではありません。いずれにせよ1カ月後には、何らかの方向性は見えてくると思います。個人的には、今の危機的な状況乗り越えても、将来も問題は続くと思っています。

会場からの質問

岡野氏（岡山タクシー(株)専務執行役員） ギリシャの雇用統計と現実の差をどう見たらいいのでしょうか。失業率は25%もありますが、アルバニア、マケドニアなど隣国から、日帰りで労働者が流入して

いると聞きます。

有吉氏 財政統計に間違いがあり、2009年にIMFや欧州によって、数字が大改訂されたという経緯もありますので、本当にギリシャの統計は信頼できるのかという疑問はもっともです。

税金が掛からない程度の仕事をしている人が失業者とカウントされていることはあります。また、社会的セーフティー・ネットがそこそこあるのであえて仕事をしない人も多いということもあります。しかし、失業率が高いのは疑いのない事実です。この辺の事情はスペインやイタリアも同様です。

一方で、アルバニアは所得水準が低い国で、ギリシャ国内の3Kの仕事が回ることも考えられます。コネを作り、保護された公的な仕事につくことが得策とされるギリシャ社会ではいい仕事以外は望まないということも失業率の高さに繋がっているようです。労働市場を機能させるため、既得権益を打破することが大切です。

(追記)

報道されているように、ギリシャとEUの交渉はいったん決裂し、IMFへの6月末の返済もできず、資金不足から銀行の引き出しも制限されることとなった。そうした中、ギリシャはEUの支援条件の諾否を国民投票にかけ、60%以上の反対票を得た。この「民意」を背景にギリシャは再度EUとの交渉に臨んだが、結果的にはEU案をほぼ全面的に受け入れ、ギリシャの全面降伏に近い形でとりあえずは決着するという理解しがたい経緯をたどった。これにより、デフォルトやユーロ離脱という事態は当面避けられたが、問題の先送り以上の抜本的な解決策にはなっていない。

IMFは債務削減なくしてはギリシャの再建は不可能との見解を明らかにしている一方、EUは返済期限の大幅な先延ばしのみで対応しようとしているようである。EUの要求に屈しギリシャは一層の財政緊縮と民営化、構造改革を受け入れたが、ギリシャが本当にこれらの改革にコミットしているとは思えず、また、たとえこれらがすべて実行されてもギリシャ経済や財務状況が急速に改善するとは考え難い。今後も経済危機と社会・政治危機の再燃の火種をかかえつつギリシャ情勢は推移するものと考えられる。ギリシャ経済はEUによる丸抱えの状態が続くのでギリシャの経済問題が他国に波及するリスクは少ないと考えられる一方、緊縮策と構造改革への反発を背景としたギリシャの社会・政治不安のリスクの一層の高まりと各国への波及が問題となろう。

講演要約（1月14日 岡山EU協会設立5周年記念講演会）

「フランス人から見た日本文化のあれこれ」

講師 リシャール コラス シャネル日本法人社長・小説家

リシャール・コラス氏の紹介

1953年生まれ、フランス、オード地方出身。1975年パリ大学東洋語学部卒業、在日フランス大使館儀典課に勤務。日本のオーディオメーカー、AKAIのフランスの代理店勤務を経て、1979年よりジバンシイに入社。1981年ジバンシイの日本法人会社設立に参加し、4年間代表取締役を務める。1985年シャネル株式会社に香水化粧品本部本部長として入社。1993年より2年間、香港のシャネルリミティッドにおいてマネージングダイレクターを務めた後、1995年8月シャネル株式会社代表取締役社長に就任、現在に至る。

日本に暮らし始めて約40年、鎌倉に居を構えて10年。奥さんも日本人という親日家。小説家でもあり、デビュー作は、18歳の夏に初来日した体験がもとになっている「遙かなる航跡」（集英社、2006）。



はじめに

本日はお招きありがとうございます。フランス人から見た日本の文化について、お話しいたします。ただし、侘び寂びなど日本語や日本文化の概念的な部分を伝えることは、まだまだ不完全だと思っていますので、予めお伝えさせていただきます。

ニコン社のカメラがきっかけに？

当初、私は日本文化にそれほど興味はありませんでした。たまたま、50年代初めにフランス-日本線が初就航しましたが、エール・フランスのパイロットで、日本航路を飛び、日本を愛する父の強い勧めで、日本を訪ねることにしました。何より、ニコン社のカメラを手に入れたい気持ちが、若かりしころの私を突き動かしました。

日本人に惹かれて

日本を訪ね、まず、日本人に大変惹かれました。

ホームステイでは、日本銀行に勤める人の家庭を紹介されました。国内旅行は、往年のユースホテルを利用するつもりでしたが、ラッキーなことにも、旅先で知り合った人の家庭に泊めてもらう機会が多くありました。私は手放しに、日本人の温かさに感動し、もっと日本人を知りたいと思いました。

このため、大学の政治学部と並行して、東洋語学校日本語学科へ入学しました。この時から私の「日本へのロマンス」が始まりました。例えば1週間の短期の休みでも日本へ向かうようになったのです。

フランス人を魅了する日本文化

私だけではなく、フランス人は、日本文化に非常に高い関心があります。パリのグラン・パレで2カ月間開かれている葛飾北斎展は、いまだに行列が来ているくらいです。

日本文化への興味は、経済的なつながりと密接に関係していると私は考えています。それは日本が鎖国をしていた時代、明治維新の30年ほど前にさかのぼります。

この当時、日本の大きな産業は製糸業でした。フランスでも盛んでしたが、ある時大きな問題が起き、フランスの蚕が次々と死んでしまう事態が発生しました。困った養蚕業者は、急ぎょ、丈夫だと評価の高い日本の養蚕業者に依頼し、蚕を調達し、窮地を逃れました。鎖国時代の出来事です。驚かされます。

こればかりではなく、ルイ14世の時代から、日本の絹織物は世界一だとされ、オランダ経由でフランスは日本の絹織物を手に入れていました。この頃から、フランスは日本製と日本文化に興味を持ち始めたのです。

ジャポニズムから漫画カルチャーまで

このため、フランスの芸術の分野では、モダニズムの中に、ジャポニズムが入りました。私たちの世代は、柔道や剣道などの武道に魅了されました。45歳以下の世代は、漫画カルチャーです。フランスで翻訳を読んで関心を持ち、もっと面白いものが読みたいと、日本にやってきた世代です。漫画カルチャーの影響は案外、大きいものなのです。

訪れたい国の1つ・日本

日本は、米国や英国に続き訪れたい国の1つで、興味の源は、親からの影響や、村上春樹の作品、北斎などの芸術に触れたことなどからです。背景には、19世紀以降の文化交流があるからです。私は、難解な三島由紀夫や川端康成を読みました。

反対に、フランスの文化はどうでしょう。かつて、歌の世界にはシャンソンがあり、映画界にはアラン・ドロンやジャン・ギャバンなどのスターがいて、世界的に評価が高い文化を発信してきました。これに対して、今は残念ながら、それに値するものはありません。80年代以降の作家は、世界に通用するメッセージを発信できていません。

今、日本に來ているフランスの若者は、「クール・ジャパン(国際的に評価が高い日本の文化やコンテンツ)」への憧れもありますが、世界を震撼させたテロなど渾沌とした母国の情勢に、不安を抱いているからだと思います。

“Je me tatamise.”

“Je me tatamise. (ジュ ム タタミズ)”という仏語がありますが、日本流の生活をするという意味です。自分のアイデンティティーに関わる問題ですが、私は日本に來て、日本人よりも日本人らしい生活をしようと決心しました。日本人よりも日本語を上手に操り、日本人よりも日本的な生活を送るのですから、簡単ではありません。

助けてくれたのは、日本で60年以上過ごしたフランス人の神父さまでした。しかし、その神父さまからは、いくら日本語をマスターし、文化を理解しても、青い目の外国人は日本人にはなれないから、フランス人のアイデンティティーは無くさないようにと、釘を刺されました。

壁にぶつかる

いくら日本式の生活を試みてもなお、時々壁にぶつかりました。例えば、国内でホテルに宿泊した時には、いくら正しい日本語で話しても、英語で返事をされ、閉口したことが何度もあります。これは、日本人は外国人の言語を英語だと思いこむ傾向があることだからだそうです。日本人は聴覚よりも視覚が強いとする研究まであるそうです。その証拠に、日本の新幹線の駅のベルや構内放送など、騒音が大き過ぎることに気付いていない日本人が多いでしょう。

これらのことから、文化の理解は、自分の理解を変えないといけないと思い直すようにしました。



触れ合いから、日々発見

鎌倉に家建てて、10年が経ちます。祖母が茶道家だった妻のために敷地内に茶室を建てたことをきっかけに、茶道家に茶道を学びました。もともと短気な性格の私が、何時間でも茶道をし続けられることから、日本文化の奥深さにあらためて、感銘しました。もっと早く始めておけばよかったと少し後悔しています。40数年日本で暮らしていますが、日本人と触れ合うことで、日々発見することが多いです。

消えつつある日本の文化

今、日本の素晴らしい文化が消えつつあることを心配しています。例えば、正月のお飾りを車に付ける人が大変少なくなりました。東京では、買うことすらできません。

先日、大手百貨店と元日営業について話し合った時のことです。お正月の伝統行事の継承と1年の内、唯一家族が集まる日に古里へ帰るわが社のスタッフのためにも営業を固辞しました。私たちクリスチャンのフランス人にとって、クリスマスに休日を取って家族で祝えないことと同じく大変残念なことです。日本にとって伝統文化は宝物です。

中国の人にとっても

中国の人にとっても日本の文化は大切です。中国の人が観光に訪れるのは、自分たちの失われた文化が日本に残っているから、それを見に日本に來ているのです。

2000年前に日本は中国から優れた文化を輸入し、それを継承・発展させてきています。ご承知の通り、中国は、文化革命や共産主義の台頭で、全てを失いました。

30年前に中国を訪ねた時に、盆栽は3000年前に中国で作られたことを知りました。石庭も同じです。しかし、中国に現存するものは、あまりにも貧弱なものでした。日本に輸出され、見事に花開き、それがきちんと継承されています。そのためにも、日本自身がそれ

を自覚する必要があると思います。

学びたい「一緒に生きるための努力」

私の持論は、日本全体を世界遺産にすることです。先般、フランスのフィガロ紙のインタビューで、「日本は唯一文明が残っている国だ」と話したばかりです。

日本を訪ねた外国人が日本について称える時に、京都や奈良、東京、直島などの素晴らしさを語るばかりではなく、必ず触れる点は、日本人の優しさ、丁寧さなどについてです。

特に、どこが素晴らしいのかと言うと、日本には「一緒に生きるための努力」が残っていることです。

振り返れば、60～70年代のフランスにも文明がありました。フランスもテロに対するデモを契機に、「一緒に生きることを」取り戻したかもしれません。「一緒に生きるための努力」は文化や文明の賜物であり、失わないために、もっと大事にしてほしいと思います。世界はぜひ、日本に学んでほしいと思います。

忘れられつつある日本の文化

ところが、鎌倉市の茶室に日本人スタッフを招いた時に、30代前半の女性が茶室の縁側を見て、「床の間」と言ったり、火鉢（ひばち）の名称が分からない人がいました。東京出身の彼女らは、既に田舎の祖父母宅はなくなっているため、仕方がない面もあります。畳の部屋もない現在の住まいでは、正座さえもできなくなっているでしょう。これは危険なことです。文明が失われる可能性があります。

かつて、日本の男性は冒険的だった

今は、若い男性は「内向きだ」と言われていますね。外務省キャリアが出来るだけ海外勤務を避けたいと言ったという笑い話があります。これに対して、私の周りには、自らヨーロッパに語学留学し、フランス語が堪能な若い女性もいます。私たちが若いころは、こうした日本人男性が多くいて、今は大企業のトップに就くなどしています。かつて、日本人男性は冒険的でした。他文化を知ることで、自分の国の文化の良さを知ることが出来るのです。

他文化に学び、自分を豊かに

私は日本に来て、カルチャーショックは無く、カルチャーを学びたいという「カルチャー吸収」の気持ちが強まりました。

これは、9歳から18歳まで、モロッコで育ったためです。家族もモロッコの文化を愛し、母親はモロッコ料理に親しみ、父親はモロッコ人の友人を作り、家族

ぐるみで砂漠に遊びに行くなど、生活を堪能していました。他の文化に触れることで、自分自身の肥やしとなっていたのです。

モロッコは、フランス人とスペイン人が多かったのですが、もともとはイスラム教国で王国です。また、スペインから移住したユダヤ人も多く、3つの宗教が混在していました。

子どものころは、それぞれの祝日のお休みがあることや多くの神様に見守られている安心感から、多宗教を良しとしてきました。いろいろな見方があるかもしれませんが、複数の文明と宗教を受け入れることで、自分が豊かになったと自負しています。こうしたことを子どものころから体験していたので、日本に来た時も、初めて出会う日本の文化をいかに吸収しようかと意気込んだ訳です。

文化を学び、他国を尊敬

私の子どもたちは、フランス人と日本人の血を受け継いでいますから、日本の文化とフランスの文化の両方の良さをいかしながら子育てをしてきました。

こうした中、11歳の息子の話に感心したことがありました。学校で容姿をもじってからかわれ、落ち込んで帰宅した後、「周りを気にしないで、自分の生き方を選ぼうと思う」と話した時のことです。異文化への理解や他民族への尊敬の気持ちをしっかり持っていることの表れと、誇りに思っています。

翻って、今は日本と中国に隔たりがあることは事実です。こうした時だからこそ、政治的なことはさておき、日本には中国の文化が今も宿っていることを意識し、互いに他国の文化を学び、尊敬しあってほしいと思います。

フランスのエスプリ今も

シャネルは、服飾文化創造で、女性を自由にしました。こうした精神に基づく企業で仕事ができることを誇りに思います。

残念ですが、フランスで文化が失われてきています。今回起きたテロ^{*}で、17人もの尊い命が失われた意味をフランス人はしっかり見つめ、自由、平等の精神に立ち返ってほしいと思います。

こうした中、抗議デモには50カ国の人々が集まりました。重大事案が世界で相次ぐ中、これほど注目されたのは、18世紀のフランス革命の時から20世紀初めまで脈々と続く、フランスのエスプリだと思います。このエスプリの復活を誇りに思います。失われつつあるものの、波及した世界各国に息づいていることを再確認しました。注：※シャルリー・エブド襲撃事件等

終わりに

同じように、日本の精神を世界に行きわたらせるには、まず、日本人が日本の文化を守ることが大切です。日本の精神は、侘び寂びだと思います。日本の文化を見つめて、40年以上が経ちますが、今後も同様に、見つめ続けたいと思います。

質疑応答

Q. 岡紓氏 イタリアならナポリ、フランスならトゥールーズなど欧米各国には素晴らしい観光の見所があります。日本においては、私は、瀬戸内海が最も美しいと思っています。そこで、コラスさまは、観光として、瀬戸内海の何を打ち出せばいいとお考えでしょうか。

A. コラス氏 最初に日本を訪れた18歳の時に、夜行バスの中で知り合った瀬戸田出身の学生さんの自宅に泊めてもらい、広島や金毘羅宮などを訪ねたことから、親しみがあります。

瀬戸内海は、歌川広重が描いた鳴門の渦潮など浮世絵のイメージがあります。更に、今は直島が目立され、フランスからの観光客は京都、奈良、直島を訪ねたいと言うくらいです。また、尾道や岡山、広島も同様に、フランス人が興味を持つ場所です。倉敷の大原美術館も、かつて日本人が懸命に西洋の芸術を紹介しようと奔走したことに、感動します。後は、こうした魅力ある瀬戸内をどう宣伝していくのが大事だと思います。

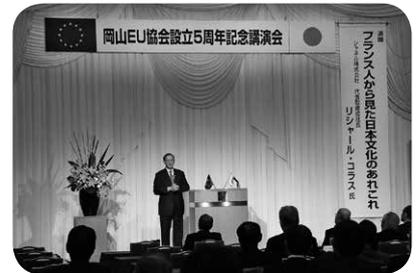
イ ベ ン ト カ レ ン ダ ー

岡山EU協会設立5周年記念講演会

設立5周年記念講演会を1月14日(水)、岡山市北区のホテルグランヴィア岡山で開いた。岡山経済同友会会員も含め、約70人が出席、作家でシャネル日本法人社長のリシャール・コラス氏の講演「フランス人から見た日本文化のあれこれ」を聴き、その後、懇親会で交流を深めた。

冒頭、泉会長はEUと岡山との相互理解や友好促進を図るため県、市、岡山大、地元財界など産・官・学の代表が発起人になり2009年12月、宮城、兵庫、香川、大分などに次ぎ全国13番目のEU協会として設立した経緯を語った後、「会員は法人59、個人36の95法人・個人でスタートしたが現在、111法人・個人となり大きさでは全国2番目」と報告、「今後とも文化、経済面など幅広い分野で岡山県とEU間の交流を図り地域の国際化の促進、活性化に努めたい」と抱負を述べた。

講演に移り、コラス氏は、写真好きだった18歳の時「ニコンのカメラが安く買えるのではないかと、思い初来日。出会った人々の温かさに感動、それから約40年間、日本に住んでいる」と話し「日本文化は実に奥が深く、掘るたびに新しい発見がある」「訪日した外国人がまず感動するのは人の優しさ、丁寧さ。みんなと一緒に生活していくために努力している」と述べ「日本には世界が学ぶべきものがある。日本はそれを失わないためにも、自国の文化を大切に、これからも守ってほしい」と強調した。

第14回EU講座
～フィンランド童話「ムーミン」の魅力聴く

第14回EU講座を3月13日(金)、岡山市北区のルネスホールで開き、会員約30人が参加、岡山県立美術館の石原亜弓非常勤学芸員から、生誕100周年を迎えたフィンランドの女性画家・作家トーベ・ヤンソンとその代表作である童話ムーミンの魅力について聴いた。20日から同館で展示会が開催されるのにちなんで開いた。

ヤンソンは1914年、首都ヘルシンキ生まれで彫刻家の父、イラストレーター之母のもとで育ち、幼いころから絵を描くのが好きで10代半ばで雑誌に風刺漫画を寄せていた。第2次世界大戦が激化、父と弟2人が出兵するという不安から逃れるように描きかけの童話の執筆を進め、ついにムーミン童話の第1作「小さなトロールと大きな洪水」(45年刊行)ができた。トロールとは北欧の神話に登場する妖精で、ムーミンはカバではない。鼻も最初は細かったが、だんだん丸みを帯び現在のようになったという。70年まで9シリーズを発表し世界中で親しまれている。日本では69年、テレビ漫画で紹介され大ブームになった。「今も多くの人々の心をひきつけてやまないのは、変わり続けるストーリーにある」と石原さんは語った。



2015年度理事会・総会～新会長に萩原邦章氏

2015年度理事会・総会が6月5日(金)、岡山市中区の岡山国際ホテルで開かれ、任期満了に伴う役員改選の結果、会長の泉史博氏(岡山経済同友会顧問、中国銀行取締役会長)の後任に萩原邦章氏(一般社団法人岡山経済同友会代表幹事、萩原工業代表取締役社長)を選んだ。泉氏は筆頭理事に就任した。

まず、理事会で任期満了に伴う役員改選を行い、新会長を選任した。続いて開かれた総会には会員約90人が出席(委任状を含む)、一部の理事、監事の交代を承認した。14年度事業報告・収支計算書を承認した後、15年度事業として、各界から講師を招いて欧州の経済・文化を学び合う「EU講座」の充実、会報「Okayama EU Letter」の継続発行、ホームページの充実、会員増強と会員への情報提供の効率化などに取り組むこと、また、同年度予算を決めた。総会後の記念講演は一橋大学教授の有吉章氏が「ユーロの行方」の演題で講演した。この後、懇親会を開きフルーツ、ピアノ演奏をバックに語り合い、楽しいひとときを過ごした。



第15回EU講座 造形作家山口敏郎氏～スペインと日本の往還

9月8日(火)、倉敷市の倉敷アイビースクエアで第15回EU講座が開かれ、会員約30人が参加。瀬戸内市出身の造形作家・山口敏郎さん(58)が「私と自然 日本とスペインの往還」と題して講演した。

山口さんは1978年に武蔵野美術大学を卒業後、スペインに渡りマドリードを拠点に芸術活動を展開している。シベリア鉄道でロシアから初めて欧州に入り各国を巡るうちプラド美術館の素晴らしさに心酔。「スペイン美術を勉強するにはプラド美術館を出る必要はなく、欧州美術を知るにはスペインから出る必要はない」の言葉に従い4年間、模写に懸命だったが、フランコ総統没後、自由主義の高まりで現代アートの花が咲き、前衛を始めた。自分の個性を磨き、いかに創造性を高めていくか。「そのためには自分の考えを話すことが一番。相手との会話の中で新しいアイデアは生まれる」。バーや食堂が一体化したスペイン特有の“バル”が多くのアーティストとの会話の場だった。

長く欧州に住んでいるうち何かしら議論づくめの生活に息苦しさをを感じるようになった。一言でいえば、西洋の絵画は3次元の世界を正確に2次元に置き換え、遠近法の発明などで自然をコントロールすることで発達してきたといえる。一方、東洋の絵画は自然になりきることであり、何かを見てではなく、自分の頭の中にあるものを描く。「日本的なものとは自然との共生が残っている状態」という考えに至り、最近では、はかないもの、移り変わるものを現代人は求めていると考え、芸術活動を続けているなどと語った。



事務局だより

岡山EU協会設立5周年を機に、ホームページをリニューアルしました。スマートフォンにも対応するようになりました。「写真で見るEU」のページでは、会員の皆さまから寄せられたEU各国の写真を公開していきたいので、よい写真が撮れましたらぜひご提供ください。



岡山EU協会

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15
岡山商工会議所ビル5階
(一社)岡山経済同友会事務局内

T E L : 086-222-0051

F A X : 086-222-3920

Eメール : info@okayama-eu.jp

U R L : http://okayama-eu.jp